

追加疾病保険に入るようである。一方メディ・ケイド(低所得者に対する医療補助)は州別の健保制度であり、この福祉家庭向きの制度は、あまり広範囲のものではない。

ま と め

カナダの病院・医者に対する保険の主目的は、保健のための経済負担を除去することであり、この点は成功している。同時にカナダ政府が国健保プログラムについて下した意思決定には、予期しなかった副産物がいくつかあった。もっとも重要なものは、総国民保健費のインフレである。

まだメディ・ケア:メディ・ケイドのような公共医療制度しかない米国へのカナダの体験による忠告は、「国健保システムのメカニズムに、医療費インフレを防止するシステムを組み込むべきだ」ということである。州別のきめこまかい行政をやっても、連邦政府の大幅な国庫補助があっても、カナダの国健保システムは医療費インフレを抑えられなかった。最近カナダ政府は、医療サービスの限界費用の100%を州政府で支出する医療インフレ抑制の新システムを提案中であるとも聞く。

GNPの成長率も急激に変化しつつある最近の公的な医療保険を中心とした日本¹⁾でも、医療に“比較政策科学分析手法”を適用することは、米・

加両国と国情・国民の医療に対する考え方が違っているにしろ、この種の複雑な保健・厚生問題を解明するには、ここに述べたような手法を準用することは大変有意義と筆者は考える。

参 考 文 献

- 1) 戸田 孝『医療をどうする——苦悩する世界』第2部1977年2～3月、読売新聞。
- 2) T.M. Marmor, W.L. Hoffman, T.H. Heagy, National Health Insurance: Some Lessons from the Canadian Experience, Policy Science, Vol. 6, December 1975, pp. 447-466.
- 3) 野村 拓『日本医師会』1976、勁草書房。
- 4) 佐口 卓『社会保障概説』1976、光生館。
- 5) 田中恒男『地域保健におけるシステムズ・アプローチとOR』OR誌, Vol. 21, No. 9, pp. 476-479.
- 6) R.G. Evans, Beyond the Medical Market Place: Expenditures, Utilization and Pricing of Insured Health in Canada, in Spyros Andreopoulos, ed., National Health Insurance: Can we learn from Canada? (New York: John Wiley and Sons, 1975).
- 7) 和田好清『サン・シティのたくましい老人』裸の日本人, サイマル出版会, pp. 111.

こばやし・もりのぶ 1925年生
米オハイオ州立大工学部卒
山武ハネウエル・プロセス制御事業部

ペーパー・フェアを実りあるものにするために

ペーパー・フェア方式も回を重ね、すっかり定着してきましたが、私自身5回ほどペーパー・フェア方式で発表してきましたので、その経験から少し感想を述べてみたいと思います。

この方式の長所で所期の目的でもあった、発表者と聞き手との間の、自由な対話の交流という点に関しては、すでに一応満たされたものと思ってよいでしょう。

そこで、いっそう実りあるものとするためには、どのような点を心がけたらよいでしょうか。

市場方式ということで、まず自分の商品をお客に展示して購入意欲を起こさせることがだいじですが、そのためには、商品の並べ方、話し方に工夫すべきはもちろんですが、なんととっても商取引は信用第一ですから、売

り手と買い手の両者に信頼関係が生まれることが望ましいのです。この信頼関係が生まれて、はじめて売り手側としては自分の商品の本当の姿を客に提示しようという気持にもなり、また買い手側は、売り手の真摯な態度に感じて、場合によっては、かけがえのない情報とか貴重なアイデアをお教えしましょう、という気持になるにちがいありません。このようなかたちで対話が進んでいけばお互いにプラスとなり、望ましいと思います。

以上は、わずかな経験からの感想というより、むしろ自分自身に対する反省といったほうがいいかもしれませんが、今後、一般発表とペーパー・フェアのそれぞれの特長を生かして、OR学会がますます発展することを心から期待します。
(天野豊治)